

## Support Person

Event: 2022 全日本学生ヨット選手権大会 87th ALL Japan Intercollegiate Sailing Championship Race Number: 1,2  
Hearing Schedule: 2022-11-05 18:00

## PARTIES AND WITNESSES

Request No.: 42: Protest Committee

Support Person - 池田大岳、谷川実寿々、稲垣菜南美、佐藤太郎、下林真璃奈  
慶応大学の全艇

## VALIDITY

Objection to Jury: No

Within Time Limit: N/A

Incident Identified: Yes

Proper Hail: Hail not required 公式掲示板に掲示

Red Flag Displayed: Not required

Decision: N/A

## PROCEDURAL MATTERS

レース委員会から受け取った情報を基に、支援者が規則に違反したかどうかを検討するために、規則60.3(d)に基づき審問を招集した。

プロテスト委員会は、規則63.9に基づき申し立てを提起する者としてレース委員会の西村真洋氏を指名した。

審問の通告には名前が挙げられていなかったが、プロテスト委員会は、当事者として下林真璃奈氏の出席を認めた。慶応大学の全艇は審問に出席しなかったが、RRS 63.3(b)に従って審問を進行した。

## FACTS FOUND

本大会の帆走指示書に、SI21.6は「【添付書 A】に示された『レース・エリア』に進入する支援艇・応援艇は、その日に進入する前に、近畿北陸学生ヨット連盟ホームページにある Google フォームの『支援艇・応援艇出艇届』に記入しなければならない。この届けは、その日の 8:00 から受け付ける。」、SI21.7は「帰着した支援艇は、近畿北陸学生ヨット連盟ホームページにある Google フォームの『支援艇・応援艇帰着届』に記入しなければならない。締切時間は、その日の当該クラスの最終レース終了時刻後又はレース委員会が「本日これ以上レースを行わない」という信号を発した後どちらか遅い方から 60 分とする。」と規定されていた。

池田大岳氏、谷川実寿々氏、稲垣菜南美氏、佐藤太郎氏、下林真璃奈氏は慶応大学の現役のヨット部員であった。

5名はいずれも支援艇の乗員であった。

11月3日、池田大岳氏、谷川実寿々氏、稲垣菜南美氏、佐藤太郎氏はそれぞれ別々の支援艇に乗船しており、下林真璃奈氏は稲垣菜南美氏と同じ支援艇に乗船していた。

5名はいずれも11月3日に自らが乗船する支援艇に係る『支援者・応援艇出艇届』の記入をしておらず、その他の乗員からも届の提出は無かった。

5名はいずれも11月3日に帰着した後、自らが乗船する支援艇に係る『支援艇・応援艇帰着届』の記入をしておらず、その他の乗員からも届の提出は無かった。

当該支援艇は11月3日にSI添付書Aに示された『レース・エリア』に進入した。

下林真璃奈氏は慶応大学の全ての支援艇の『支援者・応援艇出艇届』および『支援艇・応援艇帰着届』の記入をする担当となっていた。

5名は登録した支援艇・応援艇のうち、1艇のみが『支援者・応援艇出艇届』および『支援艇・応援艇帰着届』提出すれば良いと認識していた。

SI21.6および21.7は、支援艇・応援艇の安全を守るため、各支援艇・応援艇からの出艇・帰着届を求めている。11月3日は、実際に危険を及ぼすことはなかった。

5名は規則に違反したことを認め、調査に貢献した。

Diagram: No Diagram Needed

**CONCLUSIONS AND RULES THAT APPLY**

Rules: SI21.6および21.7

池田大岳氏、谷川実寿々氏、稲垣菜南美氏、佐藤太郎氏、下林真瑠奈氏は『支援艇・応援艇出艇届』および『支援艇・応援艇帰着届』に記入しなかったため、SI21.6および21.7に違反した。

**DECISION**

Date & Time: 2022-11-05 18:43 JST

裁量ペナルティーポリシーに基づき、出発点をレベル2と決定した。

裁量ペナルティーポリシー4.1に基づき、支援者は違反を認め調査に貢献したため、ペナルティーを軽減した。ペナルティーを加重すべき事情はなかった。

支援者である池田大岳氏、谷川実寿々氏、稲垣菜南美氏、佐藤太郎氏、下林真瑠奈氏に警告を与える。

規則64.5(b)(2)に基づき、当該支援者が支援している慶応大学の全艇に警告を与える。

**PROTEST COMMITTEE**

Chaired By: Kai Masuda (JPN)

Committee Members: Mai Kitajima (JPN), Hirofumi Fujii (JPN)